

# 第1章 調査概要

---

## 1-1 調査目的

我が国の理工系分野における女性研究者・技術者の割合は、増加傾向にあるものの依然として低い水準であり、今後、本格的な人口減少社会を迎える中でイノベーションの創出によって社会の課題を解決するためにも、女性研究者等の活躍を推進することは急務である。しかしながら、理系の中でも特に理工系分野において次代を担う女子学生比率は低い状況であり、女子生徒等の理工系分野への進路選択が促進されることが必要である。

そこで、進路検討前段階にある女子児童・生徒が、科学技術に興味を持つ端緒となる機会の確保及びプログラムの策定を行うとともに、「STEM<sup>1</sup> Girls Ambassadors (理工系女子応援大使)」等によるロールモデルの紹介や、理工系分野の学習と具体的な職業を関連付けた学習機会の拡大・情報提供等を、イベントにより実施した。本事業を通じて、「生徒や保護者への効果的な周知方法」や「人材育成に資するプログラム」などの情報を収集し地方公共団体が地域の実情を踏まえて類似事業を実施できるよう、本事業から得られた知見を整理することを目的とした。

## 1-2 調査手法

### 1-2-1 イベントプログラムの企画

国内すべての地方公共団体を対象として、イベントの開催地の立候補を募り、10 か所を選定した。参加者募集のための広報活動については、選定された地方公共団体と協力・情報交換を行いながら実施した。

内容については、①STEM Girls Ambassadors による基調講演、②開催地の地方公共団体やその近隣に立地する企業・大学等による「理工系女子が活躍する職場紹介」、③開催地近隣の企業・大学等による参加・体験型の実験教室（いわゆるワークショップ）を開催することとした。

---

<sup>1</sup> Science, Technology, Engineering and Mathematics（科学・技術・工学・数学）の頭文字をとっており、理工系の教育・研究分野を示す。

### ①STEM Girls Ambassador による基調講演

STEM Girls Ambassador は、内閣府が委嘱している理工系分野を学び、様々分野で活躍している女性であり、トップランナーの生の声に学ぶことで、理工系分野へ進んだ先のロールモデル像の提供を狙いとした。講演では、主に STEM Girls Ambassador 自身の経験に基づき、なぜ理系分野を選んだのか、挫折することがあればどのように乗り越えたのか、現在取り組んでいること等について自由にお話いただくこととした。

### ②理工系女子が活躍する職場紹介

「身近な先輩」から理工系の進路について具体的なイメージを提供することを狙いとして、主に実際に現場で働く女性職員に、普段の仕事内容や働き方等をご紹介いただいた。講演者については、できるだけ開催地（またはその近隣）に所在する企業や大学で活躍されている女性に講演をお願いする方が、参加者がより「理工系を学んだ後の進路」を身近に感じられると思われることから、開催地またはその近隣に所在する企業・大学等を優先して選定する方針とした。

### ③実験教室の実施

実験教室については、学校ではなかなか体験できない本格的な実験機会を提供し、自ら手を動かすプログラムとすることで、理工系分野への興味・関心を喚起することを狙いとした。なお、体験できる実験の数については、各開催地によって事情が異なり（協力候補となる企業や団体の候補が多数あるかどうか等）、一律に件数を設定することは難しいものの、「理工系」の範囲が多様であることに鑑みて、できるだけ複数、可能であれば3件程度の実験を提供し、参加者がすべての実験に参加できるよう調整を目指した。

## 1-2-2 プログラム

前項までの事項を踏まえて決定したイベントのプログラムは以下のとおりである(図表 1)。

図表 1 イベントの標準的なプログラム

メニュー名	標準の時間配分	講演者
1. 開会挨拶	10分	内閣府
2. 基調講演	50分	STEM Girls Ambassadors
3. 理工系女子が活躍する 職場紹介	25分	地元企業・大学等 (理工系出身の女性研究者等)
4. 実験教室	85分	地元企業・大学等 (3件の実験を開催する場合、1実験につき25分、会場間移動を5分とする)

## 1-2-3 アンケートの実施

参加者に対して、会場への入場時にアンケート用紙を配布し、来場手段、参加したことの満足度や効果等を記入いただいたうえで、イベント終了時に記入済みアンケートを回収した(当日アンケート)。

また、参加者に対して、2~3か月後を目途(実施時期により調整)に、メール及びハガキにより、イベント参加後の学習等の状況を確認するWEBアンケートへの協力を依頼し、回答を得た(フォローアップアンケート)。

これらの集計・分析結果については22頁以降に示す。

なお、イベント及びアンケートの企画設計及び分析にあたっては、有識者へのヒアリングを行い、助言・提言を活用して内容の決定に至っている。

## 1-3 地方公共団体(開催地)の選定

開催地は、全国で10か所とし、その開催地を決定するため、国内すべての地方公共団体を対象として広く募集を行った。

エントリーに際しては、応募の理由を確認するだけでなく、周知広報の手段等をエントリ

ーシートに記載していただくこととし、記載内容等をもとに開催地を決定した。

### 1-3-1 選定基準

イベントを成功させられる見込みの高い地方公共団体を開催地とするように配慮し、以下の選定基準（図表 2）を設け、エントリーシートの内容をもとに採点を行った。

図表 2 選定基準

項目	評価のポイント
①会場候補	具体的な会場候補が想定されているかどうかを判断する
②会場利便性	会場候補として提示されている施設が、イベント（特に実験教室）の開催場所として適切であるかを判断する
③周知広報の手段	集客効果が期待できるかを判断する
④協力先の候補	理工系女子が活躍する職場紹介の登壇・実験教室を協力いただく依頼先（候補）があり、スムーズに実施計画の検討が行えるかを把握する
⑤応募理由等	各地域の課題に対して取組の目的が適切であるか、継続的な取組みへの期待ができるかを判断する

### 1-3-2 選定にあたっての留意事項

地方公共団体の規模や地域性等、幅広い事例を収集したいという観点から、地域バランスにも配慮しつつ、選定基準にしたがって内閣府が選定を行った。

### 1-3-3 募集・採択

本事業の応募は 2019 年 6 月 3 日より開始し、6 月 20 日まで応募を受け付けた。

応募件数は 37 件であった。また、採択数は地域ごとに 0～2 件とし、全体で 10 件を採択した（図表 3）。

図表 3 応募件数／採択件数

地域	県	応募者数	採択数
北海道	北海道	0	0
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	7	2
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県	9	2
北陸	新潟県、富山県、石川県	0	0
中部	福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	9	2
近畿	三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	4	1
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	1	1
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県	0	0
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、	6	2
沖縄	沖縄県	1	0

〔採択された地方公共団体〕

青森県弘前市、岩手県花巻市、群馬県桐生市、千葉県木更津市、愛知県刈谷市、長野県上伊那広域連合（地方自治法によって定めのある特別地方公共団体）、京都府舞鶴市、鳥取県琴浦町、福岡県古賀市、長崎県長崎市